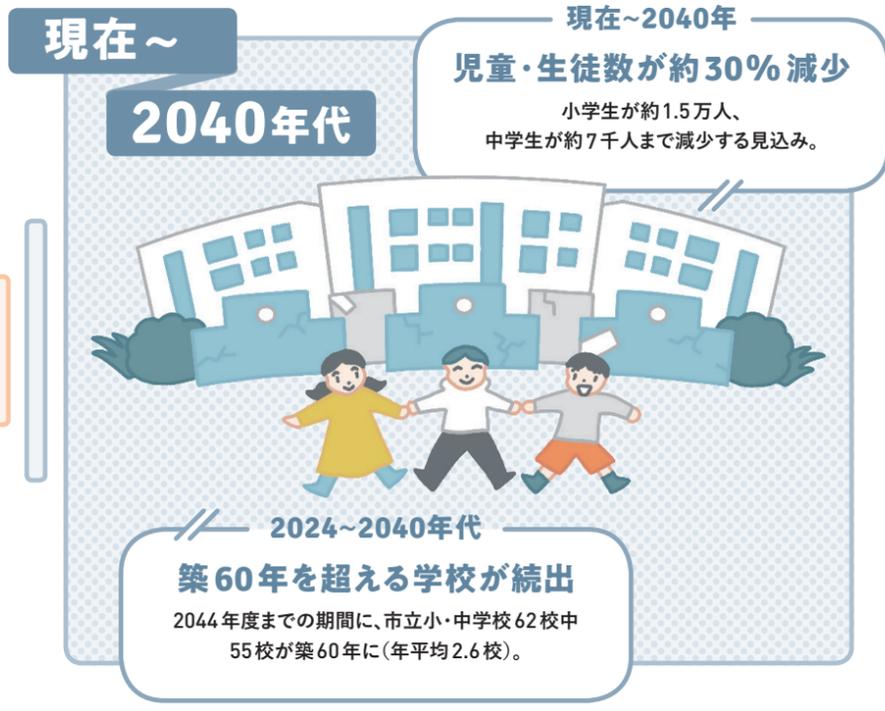


# 2 少子化と学校の老朽化

町田市の少子化と学校の老朽化の状況を、  
歴史を振り返りながら見てみよう！

小学生が15年間で  
3.7倍も増えた  
時期があるんだ！  
沢山の学校をつくる  
必要があったんだね。



## 学校の建替え時期が集中する理由とは

町田市は団地のまちです。高度経済成長期に大規模団地が建設されたことで人口が急増しました。1965年には小学生が約1万人、中学生が約5千

人だったものが、1980年代初頭には、小学生が3.7万人、中学生は1.8万人まで急増したことから、この時期に沢山の学校を建設しています。

しかし、少子化によって小・中学生は減少を続けており、2040年度には、小学生が1.5万人、中学生が7千人ま

で減少の見込みです(2020年度比約30%減)。そして、この高度経済成長期に建設した学校が一斉に老朽化しています。

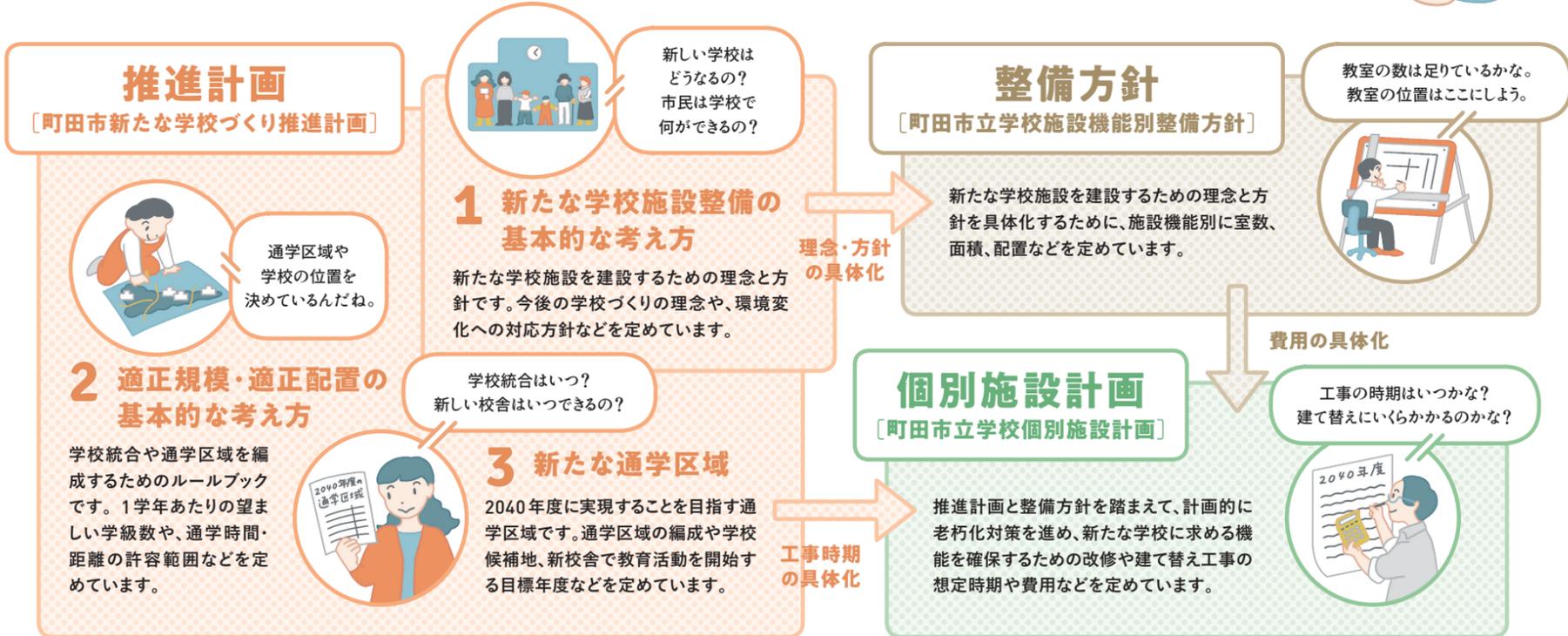
全国の公立小・中学校の平均建替時期は、築42年となっていますが、町田市立小・中学校では、2021年度時

点で、築42年を経過している校舎のある学校が62校のうち41校あります。2024~2044年度は、築60年(鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数)を迎える学校が集中しており、すべての学校を建て替えることは難しいことから、学校統合の議論を進めてきました。

# 3 推進計画ってなんだろう？

学校統合を契機としたまちだの新たな学校づくり。  
その基本となる新たな学校づくり推進計画を見てみよう！

なるほど、学校の統合が目的ではないんだね！



## まちだの新たな学校づくりに込めた願いとは

少子化と学校施設の老朽化によって、すべての学校を建て替えることが難しい状況では、学校統合の議論を避けることができませんでした。

しかし、学校統合の議論を避けることができないとするならば、統合して建設する学校は、町田に生まれ育つ子どもたちが未来を切り拓くために必要な資質・能力を地域ぐるみで育むような新たな教育環境をつくりたいと考えています。この願いのもとに、審議

会を設置して検討を重ね、2040年度までに小学校を42校から26校、中学校を20校から15校に統合しながら新たな学校づくりを推進するために「町田市新たな学校づくり推進計画」をつくりました。そして、推進計画に掲げた新たな学校づくりの理想を具体

化するために、「町田市立学校施設機能別整備方針」「町田市立学校個別施設計画」を一緒につくりました。まちだの新たな学校づくりを推進することで、教育を重視する子育て世帯が町田市に住みたくなくなるような新たな教育環境に刷新していきます。